

令和5年度
小学校第4学年
国語

注意

- 1 「始め」の合図があるまで、中を開かないでください。
- 2 先生の指示しじがあつてから、組、出席番号せき、名前を書いてください。
- 3 問題は、1ページから13ページまであります。
- 4 答えは、すべて解答用紙かいの指示された場所に
はつきりと書いてください。

組	出席番号	名前

1 次の一から五までの問いに答えましょう。

一 次の(1)・(2)の文の――部の漢字の読みを、ひらがなで書いてねいに書きましょう。

(1) いねが育つ。

(2) うどんがこの土地の名物だ。

二 次の(1)・(2)の文の――部のひらがなを、漢字で書いてねいに書きましょう。

(1) はやく走れるように、校庭で練習した。

(2) のうぎようがさかな国。

三 次の(1)・(2)の漢字の部首名を、の中の1から5までの中からそれぞれ一つずつえらんで、その番号を書きましょう。

(1) 語 (2) 顔

1 おおがい

2 きんずい

3 きへん

4 ごんべん

5 おおざと

四 次の文の主語を、次の1から4までの中から一つえらんで、その番号を書きましょう。

¹ ふっていた

² 雨が

³ 急に

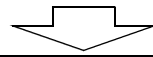
⁴ やんだ。

五 「おひつ」について書いた下書きを、書き直しました。どのようなことに気をつけて書き直したのでしょうか。あとの1から5までの中からあてはまるものを二つえらんで、その番号を書きましょう。

【下書き】

○おひつ

ごはんを食べるときに使う道具で、多くは木できていて、ごはんのかんそうをふせいで、ふっくらやわらかなじょうたいでほぞんできますし、今でも人気があります。たき上がったごはんをかまからうつし入れてほぞんしたり、食たくに運んだりします。いろいろなぎいりょうで作られたおひつがあるそうで、見てみたいと思いました。



【書き直した文章】

○おひつ

ごはんを食べるときに使う道具です。多くは木できています。ごはんのかんそうをふせいで、ふっくらやわらかなじょうたいでほぞんできます。今でも人気があります。たき上がったごはんをかまからうつし入れてほぞんしたり、食たくに運んだりします。いろいろなぎいりょうで作られたおひつがあるそうで、見てみたいと思いました。

- 1 文のおわりをよびかけるような表現にして書いた。
- 2 意味がよくわかるように、短い文に分けて書いた。
- 3 使い方がよくわかるように、番号を使って書いた。
- 4 様子がよくわかるように、たとえを使って書いた。
- 5 内よりのまとめごとだんらくに分けて書いた。



2 国語の時間に、はんに分かれて、昔の町の様子や今の町について地いきの人にしつ問をする
とになりました。森さんのはんは、山村さんにしつ問をしています。次の【話し合いの一部】を
読んで、あとの問いに答えましょう。

【話し合いの一部】

森 おいそがしいところ、ありがとうございます。どうぞよろしくおねがいます。

さっそくお聞きします。昔の町の様子や今の町について教えてください。

山村 四十年前は、田んぼが多く、道は今みたいにはほそうされていませんでした。車
もほとんど走っていませんでした。しかし、おまつりは、今よりもにぎやかでした。

小川 そういえば、田んぼが多かったときの様子を学校図書館にある写真で見たことが
あります。町中が緑のじゅうたんでおおわれているようでした。

山村 そうですね。夜になると、かえるの合しようが始まり、それはにぎやかでしたよ。

高田 にぎやかといえ、おまつりにもにぎやかだったんですね。おまつりについてくわ
しく教えてください。

山村 おまつりの前日からじゅんぴが始まり、町中にちようちんがっられていましたよ。
また、神社では、おさない子からお年よりまでほんおどりをおどっていました。

森 なるほど。昔のおまつりは、町中の大ぜいがさんかして、にぎやかだったんですね。

川上 ところで、

山村 昔とくらべてべんりになりましたが、車が多くてあぶないなと感じるときがあり
ます。また、町の人がやすらげるところが、もつとあるといいですね。

★森 やすらげるところですか。たとえば、どのようなところですか。

(しつ問はつづく)

※ ほそう：アスファルトなどで道の表面をかためること。

一 川上さんの発言の には、どのような言葉が入りますか。次の1から4までの中からもっともふさわしいものを一つえらんで、その番号を書きましよう。

- 1 べんりになったところはどこですか。
- 2 昔の様子がよくわかりました。
- 3 昔の町の様子を教えてください。
- 4 今の町についてどう思われますか。

二 ★森さんのしつ問の仕方のよいところは、どのようなところですか。次の1から4までの中からもっともふさわしいものを一つえらんで、その番号を書きましよう。

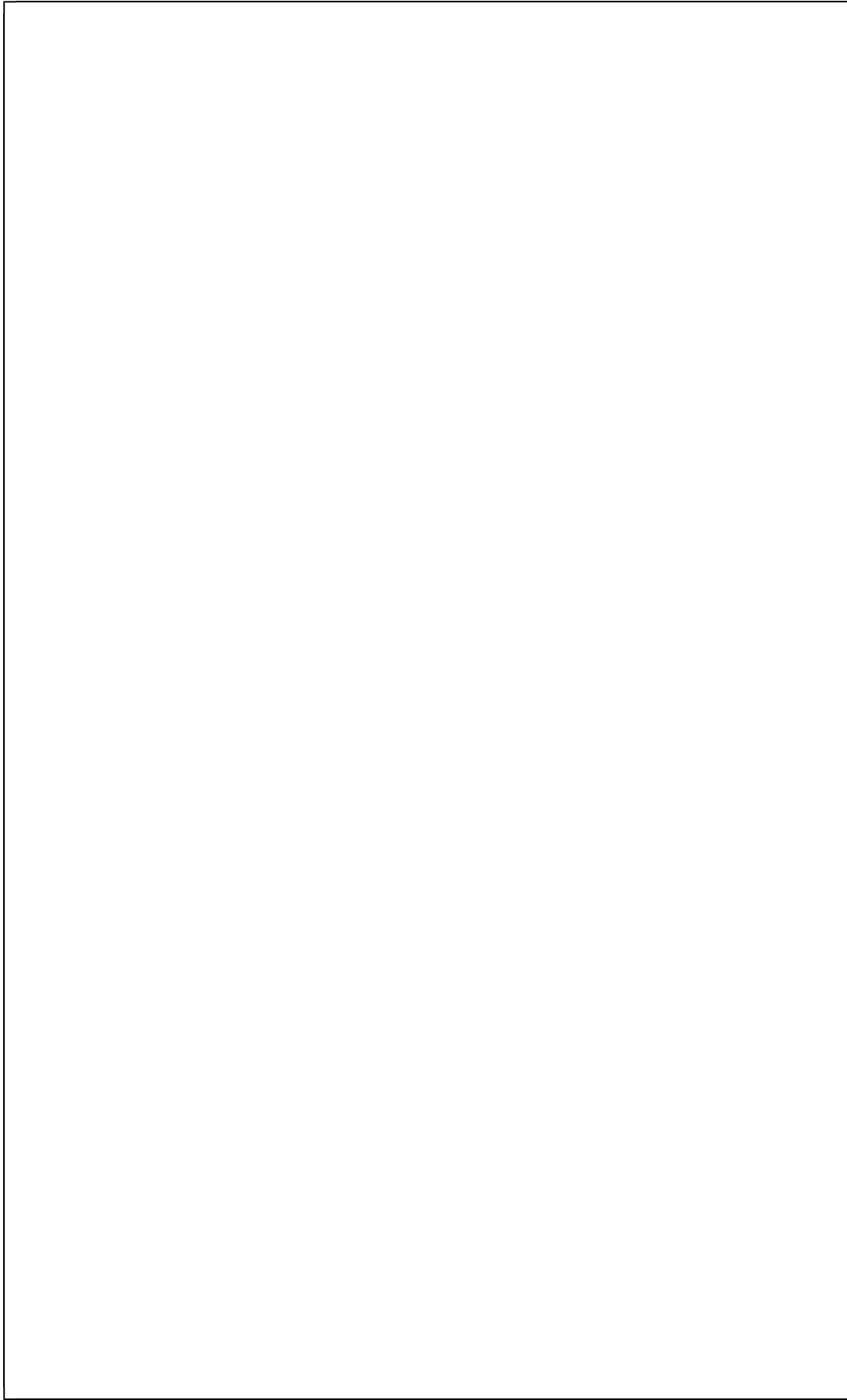
- 1 何のためにしつ問するかをくわしく話してから、しつ問している。
- 2 しつ問したいことがいくつあるのかを話してから、しつ問している。
- 3 山村さんの話の中で、自分がぎもんに思ったことをしつ問している。
- 4 山村さんの話の内ようとは関係かんけいのない、知りたいことをしつ問している。

3

木村さんたちは、交流会でアンデルセン原作の「ひなぎく」という音読げきを発表することになりました。次の【げきの台本の一部】を読んで、あとの問いに答えましょう。

【げきの台本の一部】

(横山洋子「10分で読める友だちのお話」より作成。一部省略等がある。)



一 げきの登場人物「ひばり」に対する「ひなぎく」の気持ちや行動として、もっともふさわしいものを、次の1から4までの中から一つえらんで、その番号を書きましよう。

- 1 心やさしい「ひなぎく」は、「ひばり」のわがままにふりまわされて、こまっている。
- 2 ひとりぼっちの「ひなぎく」は、「ひばり」と友だちになることができ、うれしく思っている。
- 3 友だちができてうれしい「ひなぎく」は、「ひばり」をかごの中にとじこめようとしている。
- 4 ゆうかなな「ひなぎく」は、進んでかごの中に入り、「ひばり」を助けようとしている。

二 【げきの台本の一部】のひなぎくのせりふ「ひばりさん、元気を出して。ああ、わたしは何もできない。」を、あなたならどのようなように声に出して読みますか。次の二つのことに気をつけて書きましよう。

- 声に出して読むときにくふうすることを書きましよう。
- なぜそのように読むのかという理由も書きましよう。理由には、あなたが想像したひなぎくの気持ちを取り上げましよう。

※ 左のわくは下書き用なので、使わなくてもかまいません。答えは、解答用紙に書きましよう。

三 【げきの台本の一部】のひなぎくの に入るせりふを、次の二つのことに気をつけて書きま
しよう。

- 【げきの台本の一部】をもとに、ひなぎくの気持ちを想像して書きましよう。
- ひばりに話しかけるように書きましよう。

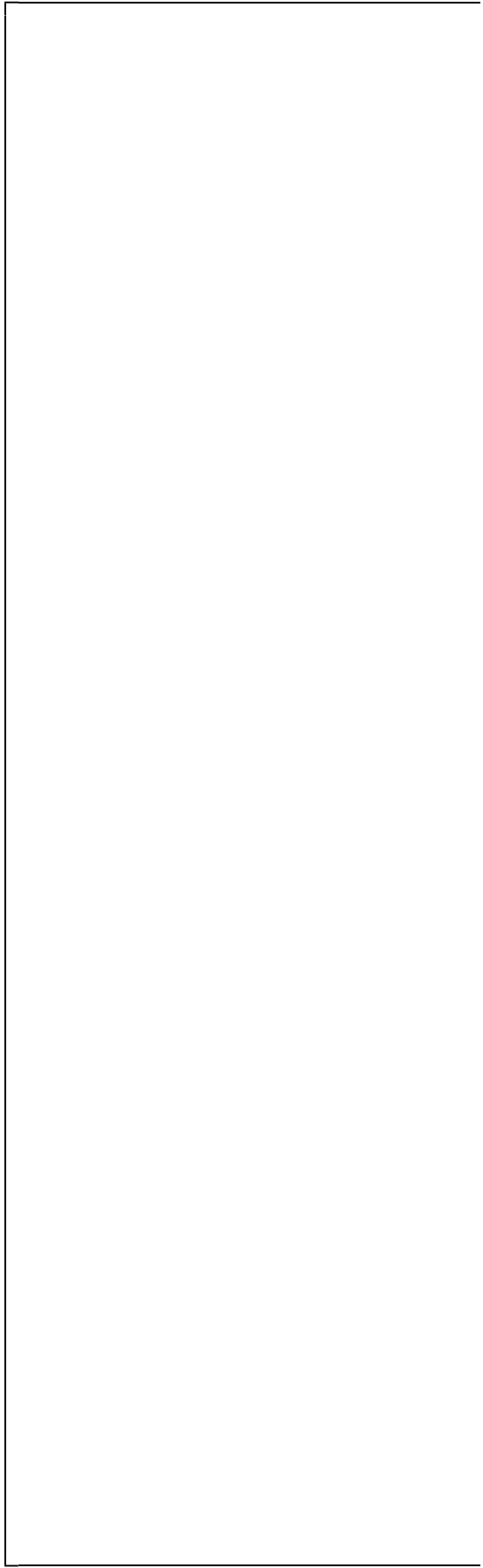
※ 左のわくは下書き用なので、使わなくてもかまいません。答えは、解答用紙に書きましよう。

4

小西さんのクラスでは、「食べ物のみみつ」について発表します。小西さんは、動物のミルクの変身へんについてポスターで発表することにしました。学校図書館で見つけた【しりよう】と【ポスターの下書げんき】を読んで、あとの問いに答えましょう。【しりよう】の①から⑥は、だんらく番号です。

【しりよう】

(中西敏夫「ミラクル ミルク」より。一部省略等がある。)



ミルクの大へん身

1 ヨーグルト

〈ア〉

暑い地方でミルクをおきっぱなしにしたとき、にゅうさんきんというきんが入りました。すると、だんだんどろっとして少しすっぱいあじになりました。



〈世界では〉

らくだややぎのミルクから作る国もあります。

2 バター

〈ア〉

しぼったばかりのミルクをしばらくにおいておくと、表面にしぼりの多いクリームがういてきます。かき回したりゆすったりすると、しぼりがくっついてかたまりました。



〈世界では〉

アメリカやフランスでは、日本の6～7倍ものりょうが使われます。

3 チーズ

〈ア〉

ミルクを入れたひつじの胃ぶくろの水とうの中から白いかたまりが出てきました。ミルクが胃の中でへん化して、ミルクの中のたんぱくしつがかたまってできました。



〈世界では〉

イ

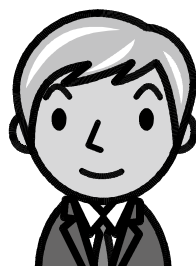
4 まとめ

ウ

四 小西さんは、地いきの食品会社ではたらいっている中川さんの話を聞き、わたしたちの食生活について考えました。そして、考えたことを、「ポスターの下書き」の **ウ** のまために書こうとしています。あなたが、小西さんなら、どのように書きますか。あとの二つのことに気をつけて書きましょう。

【中川さんが話したこと】

ざいりょうに手をくわえて、あじもせいしつもかわることを加工かこうするといひます。食品を加工すること、えいようが高まつたり、あじがよくなつたりします。また、ほぞんもでき、あつかいやすくなります。わたしたちの食生活がゆたかになつたのは、これまでにわたしたち人間が重ねてきた、くふうのおかげであることを知つてほしいと思います。



中川さん

(気をつけること)

- 【中川さんが話したこと】をさんこうにして書きましょう。
- 「このくふうのおかげで、」につづけて書きましょう。

※ 左のわくは下書き用なので、使わなくてもかまいません。答えは、解答用紙かいとうしに書きましょう。

食べ物たべものがミラクルをおこしたことをきつかけに、人間は、くふうを重ねてきました。

このくふうのおかげで、